3.7.31 拡大環境ワーキング・グループ会議の開催(2007年9月26日)

これまで実施されてきた EWG 会議と異なり、拡大環境ワーキング・グループ会議を、2007 年 9 月 26 日に通常の EWG メンバーに加えて農業省、都市開発省、および司法省を招待して開催した。会議の主要な討議内容は既存の法制度の枠組みで JICA 調査団の提言事項が実施可能かどうかに焦点が当てられた。現行法に当てはまらない場合でも国際ドナーによる融資を受ける場合には検討すべき事項である。当日は残念ながら、MOR 以外の省庁の出席はなかった。以下に主要な討議内容を示す。

- 1) Gujarat 州の多くの District で事業に対する反対意見が出された。この背景には Final Location Survey の結果の公開と再取得価格に基づく市場価格での補償の表 明の要求がある。MOR と DFCCIL は今後、事業の必要性と合意形成のためにさらに地元住民との協議を実施する立場にある。
- 2) JICA 調査での提言の内容。
- 3) 沿線住民に対する鉄道騒音・振動の対策。
- 4) JICA 調査の提言は NRP-2003 に基づくものではない。 法的根拠なしに MOR は住 民移転計画の実施はできない。
- 5) JICAやJBICなどの環境社会配慮ガイドラインは事業実施の基礎となるものである。MORやDFCCILは現行法にとらわれずに上記の提案された住民移転政策を検討すべきである。

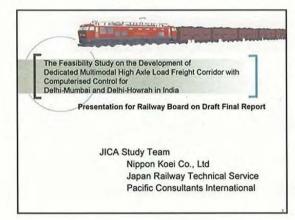
3.7.32 Railway Board に対する DF/R の説明(2007 年 9 月 27 日)

MOR Pillai 部長からの要請に基づき 9 月 27 日に Railway Board の幹部に調査団から DF/R の説明を行った。MOR からは Chairman of Railway Board(総裁)/Mr. Jena、Financial Commissioner/Ms. Sudha Choube, Member Traffic/Mr. Mathur が参席し、DFCCIL からは Kaol 社長も参加した。このほかに Executive Director 以上の MOR スタッフが参加した。日本側からは大使館/平石書記官、JBIC 斉藤/金駐在員、JICA 藤井所長/小島所員らが参加して説明会が開催された。

統合マネジメントから資料(次頁)を用いて説明を行った。特に問題となっている技術オプションについては、DFC 西回廊のダブルスタックコンテナシステム(調査団はフラットタイプを推奨)および機関車牽引方式(調査団は電気牽引を推奨)を含む6項目について PETS-II の提案内容と相違する理由を重点的に説明し、Railway Board の理解を求めた。

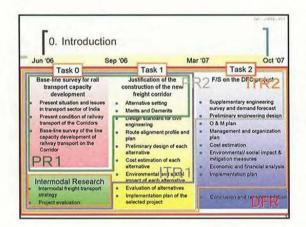
また MOR からの要請に基づき、調査団(統合マネジメント)から STEP 円借の融資条件 およびコンサルタントとコントラクターの調達条件について説明を行った。

September 27th, 2007



Clarification of Draft Final Report

1) Phased Development Scenario
2) Comparative Analysis of Technical Options
3) Transport Planning
4) Guideline Design
5) Operation and Maintenance Plan
6) Environmental and Social Considerations
7) Project Cost
8) Economic and Financial Analysis
9) Evaluation of Induced Impact
10) Management Plan of DFC
11) Project Implementation Structure (Revised)
12) Comprehensive Evaluation
13) Recommendation and Conclusion



The Draft Final Report consists of the following document:

Volume 1 Executive Summary (Task 0, Task 1, and Task 2)

Volume 2 Task 0 and Task 1

Volume 3 Task 2

Volume 4 Annex 1 Technical Working Paper

Volume 5 Annex 2 Preliminary Design Drawings

1. Phased Development Scenario Categorization of Sections by Preconditions

Conditions required to meet for the justification for the implementation of the Project

Existence of saturated line capacity.

Basic plan based on thorough technical elaboration.

Elaboration of environmental and social consideration issues.

Independent viability of the project for the particular section.

1. Phased Development Scenario
Categorization of Sections by Preconditions

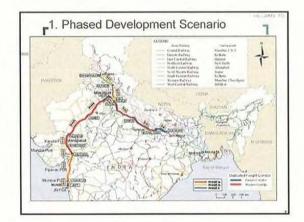
Category A: Sections having commonality of stringent traffic situation in the short to mid-term future, and non existence of engineering and environmental issues in the near future that would undermine the implementation of the works

Category B: Sections having commonality of stringent traffic situation in the short to mid-term future, however its implementation is judged to be impossible in the immediate future due to existence of serious negative impact from the engineering and environmental aspect.

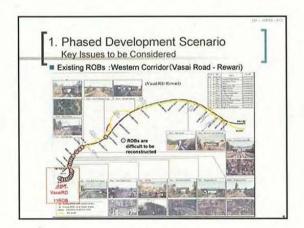
Category C: Sections having commonality of no serious traffic situation in the short to mid-term future.

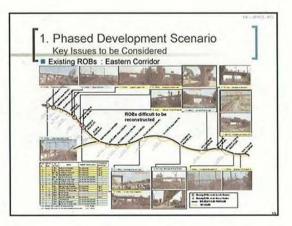
September 27th, 2007

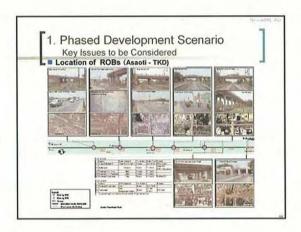
Presentation for Railway Board

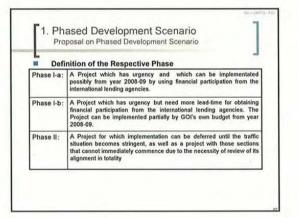


Key Issue	d Development es to be Considered	Scenario	
e Capacity Appli	ed to Calculate the Level of S	eriousness of Traffic Situa	
*	Line Capacity (Number	of trains/day/direction	
Type of Track	IR	JST	
Single track	20 (ABS)	25 (Automatic signalling)	
Double track	55 (ABS)	110 (Automatic signalling)	
	70 (Automatic signalling)		
Triple tracks (Double + Single)	75 (ABS)	135 (Automatic signalling)	
	90 (Automatic signalling)		



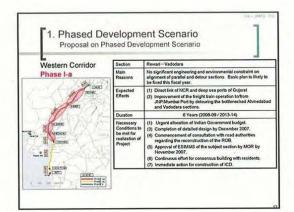


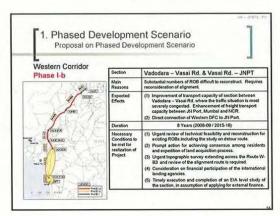


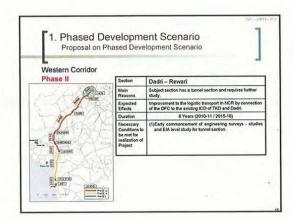


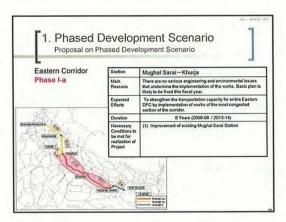
DFC JICA Feasibility Study

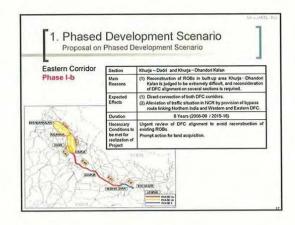
September 27th, 2007

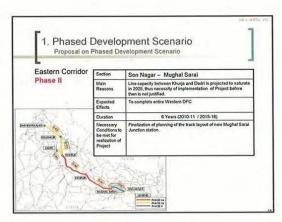






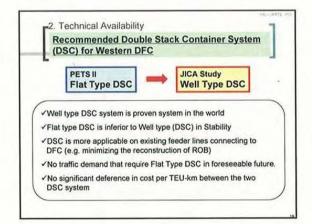


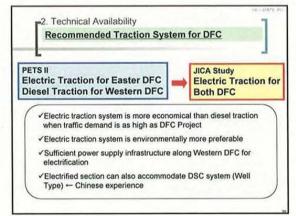


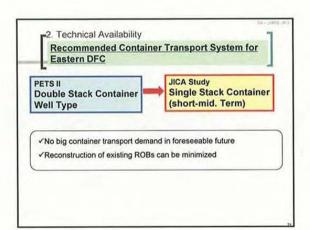


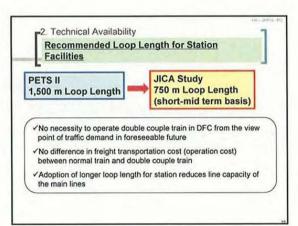
DFC JICA Feasibility Study

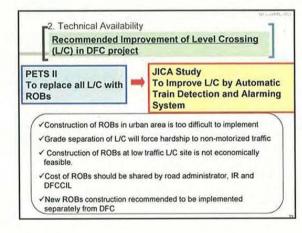
September 27th, 2007

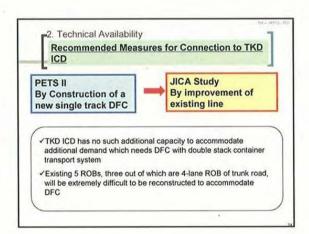




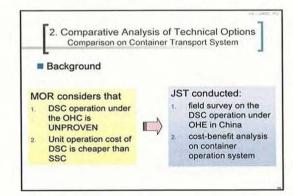




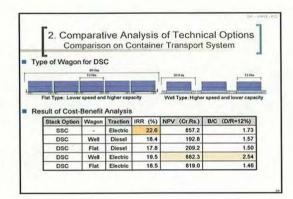


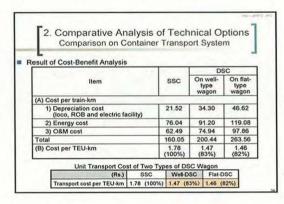


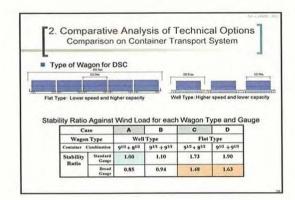
September 27th, 2007

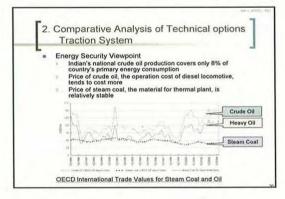






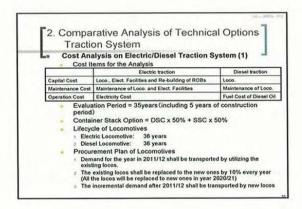


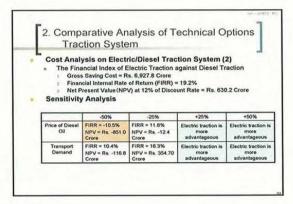


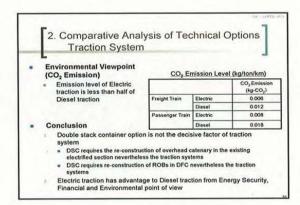


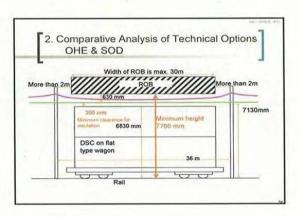
DFC JICA Feasibility Study

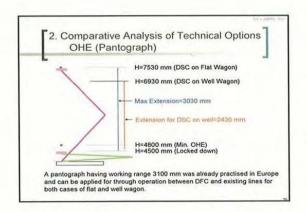
September 27th, 2007

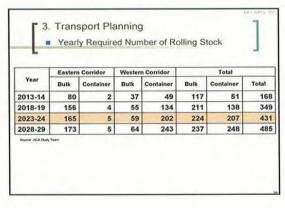




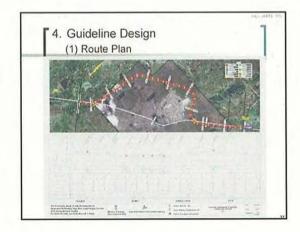


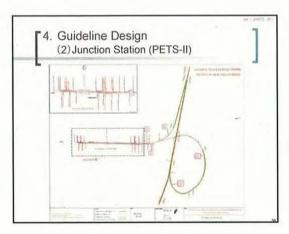


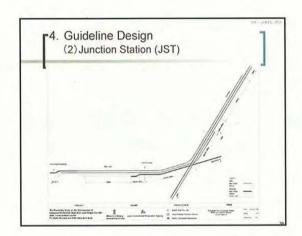


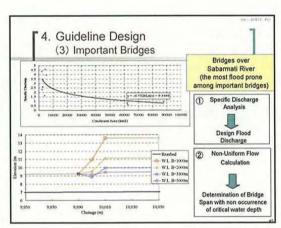


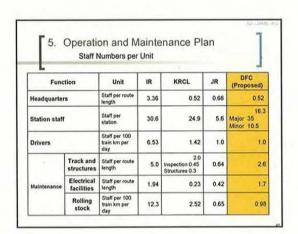
September 27th, 2007

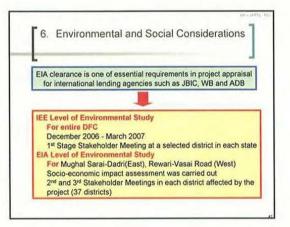






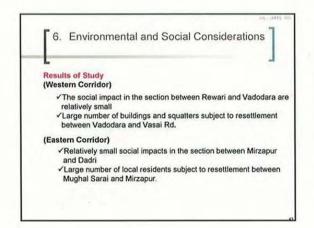


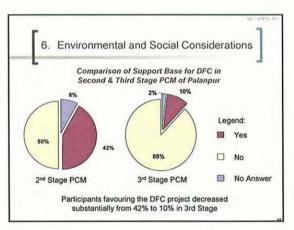


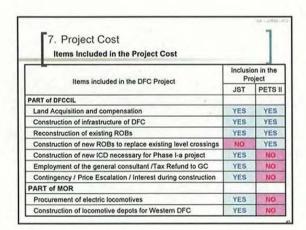


DFC JICA Feasibility Study

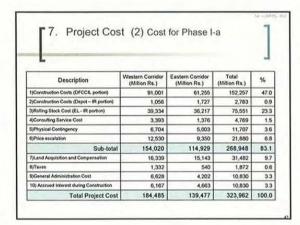
September 27th, 2007

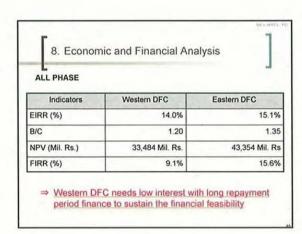




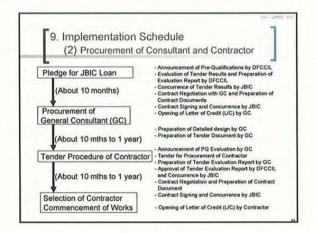


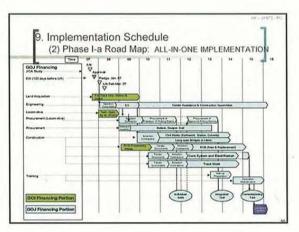
7. Project Cost	(1) Overa	III Project C	ost	
Description	Western Corridor (Million Rs.)	Eastern Corridor (Million Rs.)	Total (Million Rs.)	*
1)Construction Costs (DFCCIL portion)	163,587	108,775	272,362	54.4
2)Construction Costs (IR portion)	1,056	1,727	2,783	0.6
3)Rolling Stock Cost (EL by IR portion)	39,334	36,217	75,551	15.1
4)Consulting Service Cost	5,432	3,419	8,851	1.6
5)Physical Contingency	10,084	7,369	17,453	3.5
6)Price escalation	18,846	13,773	32,620	6.5
Sub-total	238,340	171,281	409,620	81.9
7)Land Acquisition and Compensation	26,640	25,495	52,134	10.4
0)Taxes	2,234	1,326	3,560	0.7
9)General Administration Cost	10,598	7,235	17,833	3.6
10) Accrued Interest during Construction	9,608	7,102	16,710	3.3
Total Project Cost:	287,421	212,437	499,857	100.0
Items excluded from DFC Project Cost				
Wagon Cost	20,473	14,025	34,498	
*New ROB Construction & Land Cost (PETS2)	30,605	21,962	52,566	

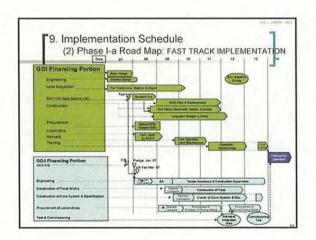


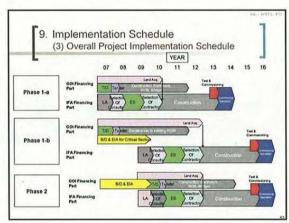


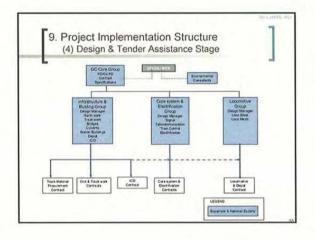
September 27th, 2007

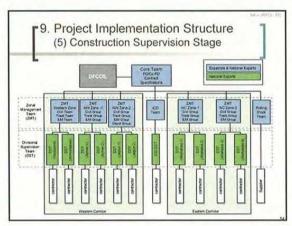












DFC JICA Feasibility Study

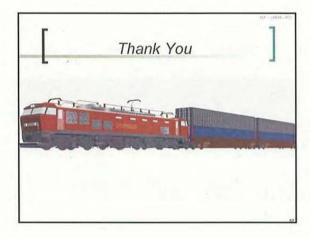
September 27th, 2007

10. Actions Required (1/2)

- Immediate decision making by the MOR on the key technical options proposed in the JICA Study Report.
 Approval by Government of India on the EIA-level report for those sections in Phase I-a, expected to be financed by JBIC Loan.
- Start consultation with international lending agencies such as WB and ADB, in addition to JBIC, to secure low interest rate loans for DFC.
- Domestic fund by the Government of India should be arranged immediately for land acquisition and early commencement of civil works.
- Finish the preliminary engineering design and final location survey of the facilities in Phase I-a by December 2007.

10. Actions Required (2/2)

- Immediate execution of engineering survey and preliminary engineering design of the existing ROB subject to reconstruction in consultation with road authorities.
- Continuous effort for consensus building with the residents along the alignment is required through public consultation meetings initiated by MOR/DFCCIL.
- 8) Immediate decision making considering on the new ICD between Rewari and Delhi which is required for the Phase I-a Project of the Western DFC.
- Actions necessary for the renovation of intermodal transport system should be taken immediately regardless of the DFC Project.



MOR 側は、本説明会に臨むにあたり調査団の結論を聞き置くだけとし、議論は一切行わない方針が徹底されていたようで、説明途中でのマイナーな質問が多少出ただけで、説明終了後は何の質疑応答もなく MOR 側は全員そのまま退席という状況となった。

しかしながらプレゼン終了後、DFCCIL の Kaul 社長が調査団側に来て

「Very good presentation. Points are very clear. This seminar is necessary for them (board member) to make correct decision」との意見を発した。

この発言から判断すると、本説明会は Railway Board の健全な意思決定に一定の効果を持つものと判断される。また、今後 DFC プロジェクトの中で主役となる Kaul 社長の JICA 調査に対する基本的指示と評価を獲得できたのは、日印間の技術オプションに関する溝を埋めることについての進展に大きな効果があったものと判断する。

3.7.33 中央ステーク・ホルダー会議の開催(2007年9月28日)

第3ステージの現地ステークホルダー協議を2007年9月28日に開催し、環境社会配慮調査(EIAレベル)の調査結果についても情報公開する一方で、主に用地取得・住民移転に係る協議内容が集中した。そこで、環境社会配慮調査(EIAレベル)が全対象地域で終了し、その結果が9月26日に開催の第8回EWGで発表され、内容が確認された。それを受けて、広く一般に情報共有するために中央レベルのステーク・ホルダー協議をJICA調査団とMOR/DFCCILとの協議の結果、実施することとなった。当日の参加者は、Uttar Pradesh州のFirozabad、Agra、Hathras、Aligarh、Brandshahar、およびGautam Budh Nagarの被影響民、Rajasthan州のSikar、Jaipur、およびAlwarの被影響民、ADB、WB、JBIC、JICAインド事務所、Delhiベースの3つのNGO、MOR、およびDFCCILであった。参加者からの主な意見は以下のとおりであった。

- 1) 各村における被影響者を適切に代表する仕組みを作り、土地等の損失に対する適切な補償が行われるべきである。
- 2) Uttar Pradesh 州では十分に土地が無いため、被影響者の代替農地の確保が難しい。
- 3) 平行区間の建設では既に既存鉄道が地域を分断しているが、事業の実施はさらに 農業の実施を困難にする可能性がある。
- 4) 土地を失う農民にとって農地が不足しているため、移転先用地の開発が必要である。
- 5) 取得される土地と建物に対する適切な補償がなされるべきである。
- 6) 影響を被る構造物の評価を適切に行うための政策を公表すべきである。

3.7.34 インドのマスコミの取材対応および調整業務(2007年9月28日)

中央ステークホルダー会議の会場にはインドの全国紙の以下の3社が来場しており、3社から合同で調査団に対してインタビューの申し込みがあり、これに統合マネジメント(増沢、仲野)が応じた。

- The Indian Express
- The Hindu Business Line
- Mint

過去にインド側がニュースソースとなっているとおもわれる DFC 関連記事が各新聞を賑わしており、特に JICA 調査の事業費とインド側積算の事業費 (PETS-II) との乖離や西回廊の機関車牽引問題などが両者間の相違点として対立を強調する形で報道されていたことから、調査団から「この点に関しマスコミに対して正確な情報を提供する必要がある」との判断から取材に応じたものである。

インタビューに当たっては最初に JICA 調査の位置づけを記者たちに説明し、質問には返答可能なものと、この場では返答できない(JICA の許可を要する)ものがあることを説明し、マスコミ側に了解を確認した上で取材に応じた。

先方の質問は以下の3点に集約された。

- 1. 調査団の算定した事業費と MOR の算定事業費の隔たりについて
- 2. 西回廊の電化・非電化問題および DSC 問題
- 3. JICA 調査提案の取扱い

1. 調査団の算定した事業費と MOR 算定事業費の隔たりについて

マスコミ側はすでにDF/Rで調査団が算定した事業費の数字をどこかから入手していたと思われ、マスコミ側から約5,000億ルピーという数字を出してきて調査団側にこの数字の確認を求めた。マスコミ側はJICA調査よる積算事業費がインド側積算の金額より相当高額になっており、この原因が日本(JBIC)の権益のための誘導にあるような考えが予見としてあるようで、調査団に対しては挑戦的な態度で接してきた。これまでのマスコミの新聞報道もJICA調査算定の事業費が不合理に高額になっているトーンでの報道があり(インド側からの情報に基づく報道)、調査団としてはこの点の認識の是正が必要との判断から以下の説明を行った。

i) MOR の算定事業費に含まれる内容と調査団が事業費に含めた内容は異なっているので、単純に比較しても意味がない。JICA 調査では機関車調達、機関車デポ建設、新 ICD 建設のほか予備費、プライスエスカレーション、建中金利などの費用を事業費に含めている。事業が運営されるのに必要な項目はすべて含めているので、インフラ建設だけに費用を見積もっている MOR の事業費とは基本的に違うのでその点を注意して扱ってほしい。

- ii) (前回よりコストは低くなっているが、もっとコストダウンはできないのか?) 基本的にコストが下がる要素はないが機関車の調達台数を減らせば数字は小さくなる。一般的には今後のインフラの推移や本事業が市場の需給関係の与える影響の度合いによってはさらに事業費が嵩む可能性も考えられる。
- iii) 事業費を高く算定したからといって JBIC の便益にはなんらなるものではない。 その点に関してはマスコミ側に誤解があるのではないか?

2. 西回廊の電化・非電化問題および DSC 問題

マスコミ側は日本側が DFC 西回廊の電化になぜ固執するのか尋ねてきた。すでにこの問題についてはインド側から吹き込まれているようで、「電化を採用するとダブルスタックコンテナ輸送ができない」という点についても調査団側の意見を求めてきた。電化がディーゼルに比べて有利であることの正当性を説明する良い機会であると考え、調査団から以下の説明を行った。

- i) 調査団が電化を推薦している理由は非常に簡単であり、電化のほうが経済的にも 環境的にも有利であるためである。運転本数の少ないローカル線ならディーゼル 牽引とすることは理解できるが、DFC のような幹線鉄道でディーゼル牽引を採用 することは常識的にありえない。すべて列車がディーゼルエンジンと発電機と燃料と燃料タンクを積んで自家発電しながら走っている状態は不経済であること は一般の方にも理解いただけると思う。
- ii) 電化でダブルスタックを走行させることは JICA 調査ででも検証した。中国にも 出かけて電化区間の DSC の視察もし、DSC は電化区間でも問題なく走行できる との結論に至った。電化+DSC で技術的に問題となるのはコンテナ上面と電車船 線との離隔確保であり、30cmの離隔が確保できれば DSC も問題なく走行できる。 DSC に対応した高さのパンタグラフも調達可能であることも確認済み。
- iii) (IR は Triple Stack も計画している?この場合は電化では対応できないのでは)

Triple Stack は自動車輸送の場合の3段積み方式でありコンテナの3段済みではない。自動車3段積み (Triple rack) はコンテナ2段積みの MMD に収まるので DDC とおなじく西回廊電化の場合でも自動車3段積み貨車の走行は可能である。

3. JICA 調査提案の取扱い

JICA 調査の今後の予定およびインド側が JICA 調査の結果を受け入れない場合の状態について問われ、以下の説明を行った。

- i) DF/R は先週インド側に提出した。これに対するコメントを受領後 F/R を取りまとめ 10 月中旬-下旬の間に提出する
- ii) (DF/R に対する MOR の反応はどうか?) IR は調査団の DF/R での提案については

現在 under consideration の状態であると理解している。調査団の調査が拒絶されるようなことは一切ない

iii)(西回廊電化問題も含めて、IR 側が JICA 調査の提案を受け入れなかった場合はどうなるのか?) 円借款のアプレーザルは調査団の結果に基づき実施されることになっている。JICA 調査の提案とは異なる方針をインド側が選択した場合は円借の案件審査が困難になると思われる。

3 紙の記者に対するインタビューは、コーヒーブレイク中に実施され、途中で時間切れとなったが、3 紙のなかで Indian Express の記者のみが、その後もステークホルダー会議に残り、再度調査団にインタビューを求めてきたため、調査団側でこれにも応じた。ここでは上記と同じ質問が繰り返され同じことが確認された。

翌9月29日に3紙とも上記インタビューを記事として報道したが、2回のインタビューをおこなった Indian Express 紙が3紙の中でこの最も正確にインタビューの結果を報じており、JICA調査に関する一定の情報をマスコミにも提供する必要性が痛感された。これまでのインド側からの情報による報道に対して、JICA調査の内容及び考えをある程度一般に通知する効果はあったものと判断できる。

なお MINT 社の報道では「調査団が Triple Stack Container 輸送が電化区間でも可能であると言った」との内容の報道があったため、これに対しては同社に対して内容に不備があることを通告した。

本マスコミ報道についてのインド政府からの反応はその後も全く無かった。

3.7.35 MOR/DFCCIL/調査団合同現地調査にかかわる調整業務(2007年9月末-10月始め)

DFCCIL 本部で開催された調査団と V. K. Kaul 総裁および幹部技術者との協議で、および別途 MOR 関係者との協議で調査団が提案した段階整備シナリオの根拠になった現場状況報告を確認するため、MOR/DFCCIL/調査団による西回廊 Mumbai 付近の DFCCIL 計画ルート沿線の合同現場踏査を提唱し、2007 年 10 月上旬の実施で MOR/DFCCIL が了解された。当初、MOR から Verma 局長および Pillai 部長、DFCCIL から Kaul 総裁および他幹部の参加予定であったが、Verma 局長は米国視察、Kaul 総裁は別件のため現場視察には参加することができなくなった。しかし、DFCCIL から現場駐在事務所副所長 2 名の参加が確定した。

視察に参加したのは、DFCCIL の Mr. Subash Gupta, AGM/Vadodra および Mr. D.S. Rana, GM/Mumbai で調査団とともに Vadodra をはじめ、Surat、Valsad、Vapi、Virar、Vasai Road、Panvel、Jasai という順に DFC 計画ルート沿線を辿り、住民の過密定住状態、ROB 建設予定地の交通状況および既存線と平行に DFC 計画ルートの建設が極めて困難な区間を確認し、RITES の計画ルートの見直しの必要性を共通の認識として持つことができた。

3.7.36 ADB および WB に対する DF/R の説明・協議(2007 年 9 月 21 日、10 月初め)

2007年9月21日にADBの塚田氏、また2007年10月4日にWBのTharakan氏と面談し、ドラフト・ファイナル・レポートを手交し内容の説明を行った(ADBにはJICA 竹内チーム長も参加)。段階整備シナリオの設定、技術オプションの比較検討には両者とも興味を示し、JICA 調査の提案に基本的な同意を得られた。

両者に対し DFC プロジェクトに対するインド側からの資金協力の要請があったかを当方側から質したが、その時点までにはインド政府からのアプローチは全くないとのことであった。

3.7.37 Final Report の提出日に決定に関する調整業務(2007年10月1-4日)

2007 年 9 月中旬に統合マネジメントが DF/R の提出、説明・協議のために現地調査に乗り込んで、すぐに日本大使館より「Final Report (F/R)をできるだけ早く、2007 年 10 月中旬までに提出することはできないか?」との要請があった。これまでの日印政府間協議では以下の 3 点が日本側の意向としてインド側につたえられていた。

- 1) 円借対象としては西回廊を優先すること
- 2) STEP を適用すること
- 3) 西回廊は電化とすること

これに対しインド側は「JICA 調査の F/R が提出された後に、内容を検討し意思決定する」 との方針を堅持しており、F/R が提出されないと実質交渉が進まない状況があり、また JBIC のプレアプレーザル協議が 2007 年 10 月中旬から予定されていた(最終的にこの時期のプレアプレーザルは見送られ一般情報収集となった)ため、"2007 年 10 月下旬に予定されていた F/R の提出を少しでも早めたい"という日本外交筋の判断であった。

また F/R が提出されたことを内外に印象付ける必要性があったため、当初予定していなかった F/R の手交式を実施する案が JICA 本部より呈せられ、MOR 側との調整を要請された。

上記要請をうけ、統合マネジメントは MOR 側と調整作業を行った。

Final Report を早期提出するためには、DF/R に対する MOR からのコメントが早く提出される必要があるため、MOR 側は当初 F/R の繰上げ提出には難色を示した。本調査の S/W 時の M/M では、「DF/R に対するインド側コメントは DF/R 提出後 1 ヶ月以内、F/R はコメント受領後 1 ヶ月以内」となっており、MOR 側にコメントの早期提出、F/R の早期提出とうスケジュールを強制できない状況にあった。

3.7.38 DFCCIL との Vadodara~Mumbai 区間合同調査の実施(10月3日~5日)

西回廊の Vadodara~JNPT 区間の DFC 整備は ROB 架け替えや沿線の用地収用および住民 移転等の社会環境に問題があるため、その問題を解決するために第 I-a 事業に含めず第 I-b

事業で行うことを調査団はファイナル・レポートで提言した。第6回ステアリング・コミッティー・ミーティング後に実施した MOR/DFCCIL の各技術部門長との協議で、調査団が指摘した同区間の現場状況および段階整備計画の根拠となる状況把握を MOR/DFCCIL に認識してもらうため、合同調査を行うことを調査団が提案し、DFCCIL と共に実施した。合同視察の結果、次ページ以降の共通認識を醸成することができた。

The Feasibility Study on The Development of Dedicated Freight Corridor for Delhi-Mumbai and Ludhiana-Sonnagar in India

FIELD SURVEY REPORT Oct 3rd-5th, 2007

1 OBJECTIVE

During various discussions with Ministry of Railway (MOR), DFCCIL and RITES it was felt a Joint field survey must be carried out to highlight alignment issues/problems and options for Phase I-b of Western DFC

This report is based on field survey between Surat and JNPT from 3rd October 2007 to 5th October 2007.

During the field survey, Mr. Subash Gupta (AGM/Vadodara) and Mr. D.S.Rana (GM/Mumbai) from DFCCII. accompanied with the JST members and held disucussions at following site

Table 1 Date of visit locations with type of issue

Visiting Date	Place Name	Chainage of DFC (from JNPT) Issue Type		Remarks
3rd Oct	Surat	305.4 KM	Land acquisition	Page 2
3rd Oct	Valsad	236.9 KM	ROB and Work Shop Issue	Page 4
3 rd Oct	Vapi	210.7 KM	ROB and Land acquisition	Page 4
4th Oct	Virar	98.0 KM	ROB and squatter problem	Page 4
4th Oct	Vasai Rd	89.4 KM	ROB and urban developed area	Page 4
5th Oct	Panvel	25.0 KM	ROB and Built up area	Page 6
5 th Oct	Jasai	8.3 KM	Jasai Yard and cutting isue	Page 6

This report mentions "issue" and "result of discussion with DFCCIL"

The Feasibility Study on The Development of Dedicated Freight Carridor for Delhi-Mumbai and Ludhiana-Sonnagar in India

FIELD SURVEY REPORT Oct 3rd-5th, 2007

2 RESULT OF FIELD SURVEY

2.1 SURAT - BHARUCH

(1) DFCCIL Idea

The RITES alignment for DFC in this stretch was modified by DFCCIL as mentioned in the succeeding lines. This has been modified by DFCCIL so that the alignment close to Gothangam need not flyover the existing tracks, but remain on the east side and continue parallel to the existing tracks till after Sanjali then to follow JST's alignment by rail flyover to bypass Ankleshwar, Baruch and Chavaj Block Cabin on the west side of existing tracks. The Figure 1 shows the RITES, JST's (both in early statges and latest modified) alignment for DFC tracks.

A separate line flying over the existing tracks from the Gothangam Junction station will connect to the siding from M/s KRIBHCO and in the future from M/s RELIANCE Hazira port area.

(2) JST Comments

JST more or less agrees with the modifications suggested by DFCCIL and the detour routes of Surat and Baruch follow JST's alignment. The Gothangam Junction station for DFC will shift towards east side of existing tracks. The elevated feasibility of DFC tracks through Surat as one of the alternatives against to detour was seen not feasible. The Figure 1 shows the JST's modified alignment based on discussions with DFCCIL Representative.

The Feasibility Study on The Development of Dedicated Freight Corridor for Delhi-Mumbai and Ludhiana-Sonnagar in India FIELD SURVEY REPORT Oct 3rd-5^{rh}, 2007 Figure 1 Surat - Bharuch Detour Source of Basemap: Google Earth

The Feasibility Study on The Development of Dedicated Freight Corridor for Delhi-Mumbai and Ludhiana-Sonnagar in India

FIELD SURVEY REPORT Oct 3" 5", 2007

2.2 VALSAD

JST and DFCCIL Representatives visited Valsad station in order to check the feasibility of the DFC alignment encountering a ROB and Locomotive workshop siding. The alignment has to be modified in this area, one option is Valsad detour or double elevated DFC tracks. The technical and economic feasibility will be studied in order to conclude.

2.3 VAPI

At Vapi the DFC tracks have to cross an ROB in the middle of the city area, which cannot be either modified or rebuilt without affecting the city inhabitants. DFCCII. mentioned an alternative alignment for new ROB adjacent to the present one, this may entail some permanent property acquisitions.

2.4 VASAI ROAD-VIRAR

(1) DFCCIL Idea

The proposed RITES alignment, as shown in Figure 2, is adjacent to existing alignment on the east side of tracks, since the station buildings lie on the western side of the tracks. The railway land being insufficient extra land needs to be acquired by DFCCIL for providing the DFC tracks. This land belonging to District Authorities, is currently either encroached or a permanent road or buildings exist. At all the three stations ROB, urban development and Squatters problem exists.

DFCCIL is contemplating elevating the tracks in order to reduce land acquisition. This would make the tracks higher, double elevated, to clear two existing ROBs and one ROB under construction at Virar. DFCCIL are also looking at an alternate detour alignment, but have not decided the location. They also mentioned that DFC line needs to be linked to Central Railway tracks at Vasai Road Junction Station for operating freight trains to and from Mumbai and inland area.

(2) JST Idea

JST explained detour route is the only solution to avoid land acquisition problems at these stations. So an alternate route alignment from southern side, east of existing tracks was presented after leaving Juchendra Station and connecting the line from JNP to Vaitarna Station, with an operational connection with the proposed Vasai Road Junction station. Three alternatives for Junction Station are also shown in Figure 2, besides the JST proposed alignment.

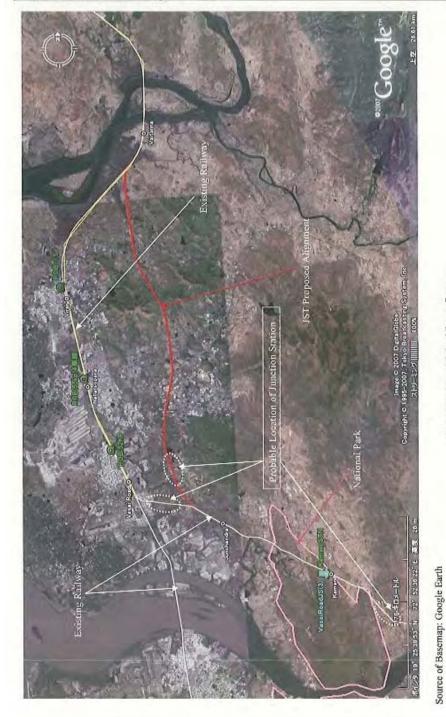
This alignment was checked by visiting three locations where roads from Nalasopara and Vasai Road towards the National Highway No. 8 meet. From these locations feasibility of the detour alignment was confirmed. DFCCIL representatives will check this route once again to confirm its viability. Connectivity to Vasai Road by providing a DFC junction station was also checked. The location of Junction station did seem difficult since this area is close to a Reserved forest area and a wild life reserve area.

Vasai Rd. - Virar Detour

Figure 2

The Feasibility Study on The Development of Dedicated Freight Corridor for Delhi-Mumbai and Ludhiana-Sonnagar in India

FIELD SURVEY REPORT Oct 3rd-5th, 2007



The Feasibility Study on The Development of Dedicated Freight Corridor for Delhi-Mumbai and Ludhiana-Sonnagar in India

FIELD SURVEY REPORT Oct 3rd-5^{r6}, 2007

2.5 JNP-PANVEL-JUCHENDRA

(1) DFCCIL Idea

The original RITES PETS II alignment for this stretch was along the existing railway tracks. DFCCIL's representatives did foot by foot survey form JNP to Vasai Road and came up with the following ideas to take care of various constraints.

The DFC alignment's 0.0 km starts away from the present JNP holding yard by about 2.5 km, which coincides with chainage 93.3 km from Mumbai central. Here 10 loop lines of 1500 m length are to be provided within the existing railway land. The DFC tracks are planned on the western side of existing tracks.

At the ROB no. 2 (JST) lowering of tracks by 1 to 1.5 m can be done to give vertical clearance of 8.3 m against the existing 6.8 m, Railway Board is considering increasing the clearance from 7.6 m to 8,3 for double stack container operation under OHE, Here another alternative of modification of existing ROB can be done by raising maximum by 1 m hence no track lowering is required if vertical clearance was kept at 7.6 m. At Jasai station rail flyover for Uran Port / Belapur new line construction works are underway which is currently stopped for final height of vertical clearance at existing track chainage of 85.67 km. At Jasai Station ROB no. 3 will require to be reconstructed. And 25 households at Kunde Wahal village will need to be rehabilitated.

Between Jasai and Panvel JST indicated a location of deep 11 m cut alongside existing line. This will be studied by DFCCIL and comments given to JST. Land acquisition is not a problem, about 2.5 km of soft ground is encountered between Jasai and JNP.

Close to Panvel station elevated tracks are proposed for DFC, since before Panvel station the DFC tracks have to cross existing tracks, river, station area, level crossings and main Panvel-Mumbai highway. Continuous elevated viaduct covers ROB nos. 6 and 7 at double elevation. At Panvel station coaching terminal horizontal curve of 700 m is proposed. Two village areas of Karjada and Mongali need some rehabilitation.

Near Diva junction sharper curves of existing tracks are proposed to be reduced to 700 m radius. At Kopar road station DFCCIL is aware of squatter and permanent structures in the vicinity of the DFC tracks, this will be dealt as Maharashtra state compensation laws. While the North side of Kopar Rd. Station shifting of existing line from 45.304 to 48,162 km is planned to avoid two six storied buildings 8 to 10 m apart. The DFC lines then replace the vacated existing right of way.

(2) JST Idea

JST's representatives agreed with most of the modifications suggested by DFCCIL but issue of 11m cut near Jasai – Panvel along the existing tracks needs to be resolved by them. Also an alternative detour alignment east side of Panvel was suggested to be reviewed by DFCCIL wherein two tunnels in the hills may need to be constructed in order to avoid double elevation near Panvel station. The DFC alignment of JST's proposal are shown in Figure 3.

A mangrove forest, national park and wild life reserves also are in the alignment of DFC, this should be confirmed by DFCCIL after discussion with Local Forests and Wild life District Forest officers.

The Feasibility Study on The Development of Dedicated Freight Corridor for Delhi-Mumbai and Ludhiuna-Sonnagar in India

FIELD SURVEY REPORT Oct 3^{nf}-5th, 2007

JST's detour after Juchendra station directly to Vaitarna was preferred by DFCCII. representative, who will look at this viable alternative.

The Feasibility Study on The Development of Dedicated Freight Corridor for Delhi-Mumbai and Ludhiana-Sonungar in India FIELD SURVEY REPORT Oct 3rd-5th, 2007 Jasai - Panvel Detour Figure 3 Source of Basemap: Googll Earth 8